

令和5年度 大阪市立東淀中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞

全国と比較して、「書くこと」領域が-6.6と昨年度の-9.9から改善が見られた。「読むこと」領域においても-11.4と昨年度の-11.7ポイントより僅かではあるが改善されている。依然として全国とは差があるが、「書くこと」と「読むこと」領域の差は改善されている。

＜数学＞

全国と比較して、「数と式」領域において、-7.9と昨年度の-9.0ポイントより改善があった。ただし、「図形」領域が-8.2、「関数」領域が-10.3、「データの活用」領域が-15.3と差がひらいている。特に「図形」領域と「データの活用」領域が昨年度との比較からも大きく下降しており、課題である。

＜英語＞

全国と比較して、「聞くこと」領域が-11.6、「読むこと」領域が-9.0、「書くこと」領域が-10.1となり、課題である。「話すこと(やり取り)」領域で-8.5、「話すこと(発表)」領域で-1.1となっている「話すこと」領域は全国的にも平均正答率が低く課題とされているが、本校はそれより低く課題である。

【今後に向けて】

全ての教科において基礎的な学力が定着していない現状があるので、その部分を改善するために、生徒の状況に応じたプリントを作成し、デジタルドリルやアプリを活用して興味関心を引くような工夫をしている。また、その学習を家庭学習にもつなげる工夫を行い、基礎学習を積み重ねることで改善を目指す。授業外においては放課後学習やテスト前学習、長期休業期間学習を継続して活用していく。

＜国語＞

「書くこと」領域と比較すると「読むこと」領域において改善はみられるものの僅かな数値である。リーディングスキルテストを活用し、総合的読解力の育成を推進しながら、改善を目指したい。授業において、2年生は毎時間、漢字の小テストを実施し、基礎学力の定着を目指している。3年生は授業始めに漢字の復習学習を行い、1年生は生徒の状況に応じたプリント学習を実施している。

＜数学＞

無回答の割合が、全国と比較して、「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の全ての領域でかなり高い。基礎、基本からしっかりと取り組んでいく必要がある。現在、1年生は朝学習でデジタルドリルを活用している。毎時間の授業でもICTを多く活用し、視覚的な教材で興味関心を促しながら、理解を深めていく。また、学習の定着状況を確認しながら小テストを実施し、単元ごとに振り返りレポートを活用することで更に学習の定着を目指す。

2年生では各単元に5回の単元テストを実施している。毎回の授業でも宿題プリントを行い、提出後に生徒個人の状況に応じた解説などの添削をすることで学力を定着させている。また、応用問題を生徒に発表させ、表現力を養いつつ、授業への興味関心を引き出す。

＜英語＞

3年生は英語検定に向けて生徒用端末を持ち帰りMEXCBT(メクビット)を活用し、1年生はデジタルドリルやアプリを活用している。定期テスト前は対策週間としてのプリント学習を行っている。2年生もプリント学習を行い、学力の定着を目指す。